

Subject: 繋がる県陵魂と禊

卒業50年式典では、懐かしい顔、あいつ誰、変わったなの声が飛び交い、楽しい集まりでした。名前を呼び捨てにし、「馬鹿」、「違うわ」、「そうじゃねわ」、が50年経った今も言いあえるのは、まるで喧嘩の様、高校時代にタイムスリップしてました。

始まりは入学式後、浅輪先生に「青柳君、終わったら校長室に行ってくれる」 嘘!「まだ何にもシテネエシ」と校長室に。さっき見た校長と渡辺三郎先生が、「お前の親父には、世話になったな」と、頭が真っ白になりその後、何を言われたのか覚えがありません。その頃、父は東京で働き、母は上土町で化粧品店を営んで居たので、聴く分けにもいかず、後から父は中学創立1回生で名簿順1番、サーカー部、柔道部でヤンチャしていた様で、戦後羽振りが良かった頃、食料ややサッカーシューズ等持って行き、サブちゃんは背小くよく虐めてたようです。

卒業後、父の影響で東京同窓会に無理やり入会させられ、今では高校時代より出席日数が多く、先輩から後輩まで知り合い、何か分からない素晴らしい連帯感があり、こらが県陵魂!かなと思っています。

卒業30周年に、佐藤仁先生に「英語辞書のYから後のページはシケモク(タバコ吸殻)を辞書に巻いて吸ってページが無かった」と懺悔した辞書が出てきました。卒業50周年に皆さんに見て頂きましたので、ご冥福を祈りつつ禊として下さい。

青柳善久